

(1)

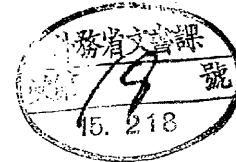
8 13.1.5.0 -7

2

M-0210

0007

41.5.1.38



中

臺灣總督府

警高甲第三一三六號

大正十五年二月十三日

台灣總督府警務局長

第一課甲

職名

警務局長

内閣拓殖局長殿
内務省警務保局長殿
外務省亞細亞局長殿
指定廳府縣長官殿
上海連内務事務官殿
北京立内務事務官殿

臺灣支那領事館設置ニ関スル件

各年八月三日官下台北市台灣中華會館ニ於テ標

記領事館設置ニ関シ本國政府、請願方決議
件九月四日通報置矣（東京上海ニ）處其後請
願ニ関スル消息何事聞込ナカリシモ當時台灣華僑代
表トシ國民會議々員選舉ノ為メ北京ニ赴キタル華
僑（台北市印刻業）潘文安ハ北京政府要路大官
ニ面謁シ領事館設置ノ建議シタル以テ不日領
事ヲ派遣スルガ如ク歸台後吹聴シ在台華僑間ニ概
ニ歡迎ノ情アリシガ本年二月十八日付書状ヲ以テ上海
工會維持會王九齡ヨリ中華會館長林揚川宛
別記ヲ通通知越シタル事實有之右ハ客年中王
九齡ガ工會維持會ノ維持費トシテ當地中華會館
ニ資金寄附方申込来リ中華會館ハ相留送金
シタルガ如キ聞込アルヲ以テ之ニ對シ王九齡ノ交換的

何手圓也

一時の人喜ハセニ過キ凡ニ非カト恩科多クモ外務省北京上海ニ於テ之ニ関シ何手御聞込ノ事實有之候々御回報煩度
右通報（照會）ス

別記

刻接来示事属國禮何蒙过譽 貴擬二月廿晋京度不出孟春錢君當可蒞台務希
教益本會庶務主任王菊卿前因冒名從事已在八月份登報開除現當敢任意搗乱刻已從事查究據示滙票一節昨赴郵局調查始得臺端於廿一日致王某一書前遂当候審查當至懷大歸查詢據出該款並未果撥利希速電該歸囑其亮函件款為五萬之行期前更佳以請

手續而便交代常此享履 敬啓
楊川先生台覽
等禧不展

王九齡 奉
一月二十八日
以上

卷之四

通商局 第一課 支 昭和貳年貳月參日 接受
 敬告 高田第一三六號
 昭和二年一月二十七日

臺灣總督府警務局長

人事課

內務省鑒保局長殿
外務省亞細亞局長殿
指定府縣長官殿

Y. 1.5.0.3-8.

502, A12 //

支那領事館設置請願運動の件
 庸也在性、支那人間に於て自國領事館設置
 請願運動の爲るに件、深しき屢報、遂に
 報在京支那公使並に北京政府に轉達、別

記（記者）通一在台北台灣中華會館光通
信了、其趣二供系外務（費）省其他、於
本件、測、何等通、一、莫有、供、个、師通
報相煩度
右通報又

記

中華民國駐日本公使館 書函

台北中華會館長高銘濟請願一件

(領事館添設請願，下)

領事館添設請願書提出、各常規立案、委
細說了致、各節、既、通會、依、外交部、
調省、盧程中、付、其、回、若、候、之、庚、行、一、

付于此通知

中華民國十五年一月廿日

公函 僑務司

函字第一七號

前署台灣之中華總會館設立政府駐在
領事設立請願書會書函及附送規則
正列着敘出 遠大計畫僑胞幸福
計又定之規程周岩拜見之深感
佩也台灣領事駐在一節既本島外交
部商議中前處理中一節商外交部
督促敘又貴會開會情形詳細
通報相成度其後又何少沙汰敘之
右圖答之

台灣中華總會館啟

中華民國十五年一月廿七日

秘

電信寫

1415.0.3-8

昭和3 五四四 暗 臺北 一月十八日後着 亞、通

田中外務大臣

後藤總務長官

吉

第一號

臺灣ニ支那領事館設置ノ儀北京政府ヨリ公使ニ正式交渉アリ外務省ニ於テ御考慮中ノ由新聞紙上ニ散見スル處本件ハ臺灣ニ重大ナル關係アルノミナラス現狀ニ於テハ其ノ實現ハ時機ヲ得サルモノト思考セラルルニ付萬一事實ナリトセハ豫メ臺灣總督府ノ意見ヲ徵スルコトトセラレタシ尙本問題ハ臺灣ニ於ケル中華會館幹部一味ト北京教務局員ト稱スル施文杞（生來ノ臺灣人）ナルモノ策動ノ結果ニ外ナラサル様思ハル左ノ諸點御注意迄ニ通報ス

一 在臺支那人約三萬其ノ大部分ハ福州廈門ヨリ渡來シ居ル南方勢力範圍ノ住民ナリ

二 前記一味策動者ハ領事館ノ設置ヲ北京ニ運動スルト同時ニ南京政府ニモ運動シ居ル事實アリ

三 彼等ハ北京當局ハ在臺華僑力費用ノ全部ヲ負擔スルニ於テハ設置可能ナリト答ヘタル由語り居レリ

四 施文杞ハ滯臺中文化協會派ト密接ノ連絡ヲ採リタル處領事館設置實現ノ曉ニハ彼カ領事タラント運動シ居ルコト及在臺華僑有力者中ニモ自薦者アルモノノ如ク聞ク

右ノ如キ事情ニ付本問題ニ關シテハ深甚ノ考慮ヲ要スルモノト認メラル尙昨年九月十四日附官文第六四四號北京教務局ヨリ駐臺辦理國籍掌書專員ナルモノ任命ノ件ナル拙信及大正十五、十一月十

七日附外務大臣宛公使機密第一三〇五號信參照アリタシ

他部

6 13.1.5.0 -7

12

6 13.1.5.0 -7

11

M-0210

0012

電信寫

昭和 三 一四三〇 平

本省 臺北

二月十三日 後發

通一

田中 外務大臣

總務長官代理

第一〇號 (臺北ニ支那領事館設置ニ關スル件)

貴電第八號ニ關シテハ在京後藤長官ヨリ申出ツル答ニ付御了知アリ
タシ

他度

6 13.1.5.0 -7

13

M-0210

0013

亞細亞局

502. A 12.11.13

通商局 第一課

通二宮崎

昭和三年三月三日

臺灣總督總務長官代理內務局長 豐田勝藏

外務次官 出淵勝次 殿

官文第一三九號

臺灣ニ支那領事館設置問題其他ニ關スル廈門情報ノ件
首題ノ件ニ關スル昭和三年二月二十七日附北警高秘第三七一四號ノ一

三浦臺北州知事發警務局長各州知事廳長宛通報寫、御參考迄ニ別添及
御送付候也

本信送付先

外務事館、在京後藤長官

福州總領事、廈門領事

附屬書添附
昭和三年三月九日 檢印



臺灣總督 冊

S 13.1.5.0 -7

14

M-0210

0014

秘

北支事務局長第三七百號

昭和三年二月二十七日

臺北支隊 三浦 碌郎

警務局長、各所長、廳長殿

臺灣支那領事館設置問題

其他二箇支隊内情報、件用紙

首題、爾左、如キ情報アリ、御参考迄

記

臺灣支隊ケル華僑ノ數ニ北京政府一對シ領事館設置方ヲ請願セシガ最近ニ到リ北京政府ハ領事館ハ領事館急設ノ意留アルモノ如ク密カニ之ヲ準備調査ヲ為シワリト情報到達セリ

臺灣總督府

福建革命政府ニ於テモ曾ツテ臺灣華僑ノ請願ヲ受ケタリトアリテ内々奔走中ナリシガ若シ此際北京政府多領事館設置ヲ實現スルヤト

ア、ハ僑民華僑ノ實効力及華僑協會等々自然北方政府ニ統一サレルコトアルヲ虞レ更ニ北伐遂行シテ大陸唐トナレバ憂慮スル結果極力反對ノ意アリ目下之ヲ対策ニ就ス密ニ各界ニ謀リテ

考慮中ナリト

二、共產黨員潛入說以來智化犯ニ示スル根拠強増セシメ公安局ニ於テハ優秀巡官ヲ訓練スルト

共ニ警務案ヲ設備シ一層完全ナラシム、アリト

(3)

6 13.1.5.0 -7

16

6 13.1.5.0 -7

15

15

通商司

機密第二七五號

昭和三三年三月八日

昭和三年三月十五日

別紙添附

在支那

特命全權公使 芳澤謙



外務大臣男爵 田中義一 殿

臺灣ニ支那領事館設置ニ關スル件

本件ニ關シテハ一月四日附機密第一號拙信及往電第七九號ヲ以テ及報告置キタル處客月二十三日沈外交部秘書ヨリ天羽書記官ニ對シ督促ノ意味ニテ右如何ナリシヤト問合セアリタルニ付本省ニ上申中ナル旨答ヘタルニ同秘書ハ公文ヲ以テ臺灣ニ神戸總領事館分館設置方ニ付更ニ照會致度シト述ヘ居タル處去ル一日別紙甲號寫ノ通臺灣ニ

在支那日本公使館

8 13.1.5.0 -7

17

ハ華僑多ク商業亦盛ナレハ支那政府ハ暫ク該地ニ神戸總領事館ヲ設

置シ居留民ノ利益ヲ保護シ度旨照會越シタリ尙設置地點ハ往電第七九號ノ通臺北ナリトコトナルモ更ニ公文ニテ照會方注意シタル結果六日別紙乙號寫ノ通申越セリ

六日本件ニ關シ二月二十三日附通一機密第五〇號貴信接到シタルカ同日宴會ニ於テ沈秘書ハ天羽ニ對シ本件ハ別ニ複雑ナル問題ニモ非サルカ故ニ至急解決方盡力セラレ度シト申入ノ次第アリタルニ付天羽ハ臺灣華僑ノ領事館設置方希望ノ裏面ニハ複雑ナル事情モアル如ク又福建方面ニハ反對モアル由ナレハ少シク取調ノ要アルカ如シト答ヘタルニ沈ハ華僑ノ仲間ニテ領事ヲ運動シ居ルモノアリ其ノ候補者トシテ外交部ニ對シ二三名推薦越シタルモノアルハ事實ナルモ之ヲ領事ニ任命スルトキハ種々ノ弊害ヲ生スルカ故ニ外交部員ヲ任命シ度キ意嚮ナルカ何分臺灣駐在ノ爲ニハ福建人タルコトヲ必要トシ自然人選ニ手間取り居ル事情アリト述ヘタル由ナリ

在支那日本公使館

8 13.1.5.0 -7

18

M-0210

0016

寫甲

照會京字第五號

外交總長 羅

爲

照會事現因臺灣地方華僑衆多商務繁盛本國政府擬在該處暫設神戶總領事館之分館以保僑民利益相應照會

貴公使查照並希轉達

貴國政府爲荷須至照會者

右照會

大日本國欽命駐華全權公使 芳澤

中華民國十七年二月二十九日

在支那日本公使館

8 13.1.5.0 -7

19

寫乙

京字第七三號

逕啓者查本國政府擬在臺灣設立駐神戶總領事館分館一案業於上月二十九日照會

貴公使查照在案惟對於設立地點並未指定茲特專函聲明擬在臺灣臺北設立分館相應函達

貴公使查照可也此泐順頌

日社

外交部 啓

中華民國十七年三月五日

在支那日本公使館

8 13.1.5.0 -7

20

502A1211A

文書課長

公 信 案

文書課發送 昭和參年貳月拾四日發送済 淨書 正校(原稿) (甲號用紙)

主 任 主 任 (起草) 三年二月十六日

機密第一五〇 號 大正 昭和參年貳月廿四日 附 附屬書 通

受 信 在 支 芳沢公使

人 名 田中大臣

件 名 台北支那領事館設

星ニ関スル件

本件ニ因テ貴廳第七九号接到後台灣總督

存リ別紙甲号空ノ通り來電アリタルニ付別紙

乙号空ノ通り回電シ同存ノ意見ヲ一節メタル如

公 信 案

外 務 省

6 13.1.5.0 -7 22 22 6

(譯 文)

拜啓陳者支那國政府ニ於テ臺灣ニ神戸總領事館分館ヲ設置セムトス
ル次第ハ既ニ客月二十九日附本部公文ヲ以テ及照會置キタルカ唯其
ノ設置地點ニ付未タ指定スル所ナカリシ處茲ニ右ハ臺灣臺北ニ分館
ヲ設置セムトスルモノナルコトヲ聲明致候條右ニ御承知相成度此段
照會得貴意候 敬 具

中華民國十七年三月五日

外 交 部

日 本 公 使 館 宛

在支那日本公使館

6 13.1.5.0 -7 21

右ニ對シ別紙兩号並ニ通リ同存ヨリ意見申上
アリタリ

本件ニハアリ別紙乙号部載ノ通リ今更ニ所方ニ

於テ少クモ分設設置ハ之ヲ拒絕スルコト困難ナ

リトハ思考スルニテ右ニ據テ總督存案ノ報連ノ所就

テ註貴官ニ又發送附ノ密ナニ一月十三日附第

一九号在福州西門總領事報告等ニ徴スルニ

(成號用紙)

S 13.1.6.0 -7

23

九月
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日

(成號用紙)

本計畫ハ台僑ニ在ルニミノ支那人野心家ニ

動ニ基キ其目的ノ軍ニ国籍証書發給ニ依リ

收入ヲ得ルニ在リテ眞面目ニ其留居ノ條件ヲ

目的トスルモノニ非サシガ如ク更ニ立ケ入リテ付成セト

之ヲ以テ帽子山及洮南ニ於ケル我領事館設置ニ

問題ヲ牽制セムトスルモノナルヤニ感セラレ其動機

ニ不能ノ分子アルヤニ認ムルニ如キニテ然リトセハ

S 13.1.6.0 -7

24

支那側ハ旋テモ強シ之ヲ貫徹セドスル意思ナキ
ヤモ測ラレス又我ガトレスニ台塲總督ハ抱リ危
惧ノ旨云ハ免モ角ト成ルヘ右計畫ヲ放棄セ
シムコト得策ナルヤニ思考セラルニ付先方ノ真意
未トナリ市探査ノ上若レ貴地ノ実情之ヲ許サレ
以テ總督ハヨリ教道ヲ適宜潤色シテ計畫
實現ノ曉諭議基生ノ虞アリヲ諷スルモ適

当ノ方法ニ依リ支那側ヲシテ本計畫ヲ思ヒ止マラシムル所あり
市措置相成交け段申進ス

以下一段下ナリ
うしな

追而往電第十四號所報ノ華僑国籍證書處駐台專員ノ任
命ニ関ス客年十月十九日附立本邦支那公使來翰字市参考
迄茲ニ添付ス(内附) 尚右ニ付テハ当方ヨリ回答ヲ發セサル内
本件台内ニ於テ領事館設置ニ関スル申出アリタルニ付其ノ儘ト
トスル方ナリ為今申添フ

一月十八日 後藤総務長官 来電 外務省
一月廿六日 外務大臣 冬電 同七官宛 支那八號字ヲ乙號ト
又別添 黃色罽紙記載 「L」向ヲ西號ト
昭和二年九月十五号 外務大臣 宛 復函 終極權官 来信 官文
亦大田四號ヲ丁號ト
其
支那 青ナリ 附立 支那工部局 宛 來稿ヲ「ハ」號トシテ
去己ニ 字作「ハ」上 係所迄方ノ下

外務省

27.

0021

丁内長

台湾の行政と教育の発展を期す

貴電第八号ニ関シ台湾ニ於ケル支那領事館設

置問題ハ三十年来ノ宿題ナルモ今回再燃シタル

本問題ノ経緯カ在電第一号ノ通りニテ且ツ台

湾在留支那人約三万人ノ大部分ハ南方支那福

臺灣總督府

建廣東ノ出身ニテ無智ノ苦力階級ニ属シ今

回運動ノ衝ニ當ル少数華僑成功者カ此ノ多数

無智ノ労働者ニ宣傳シテ領事館設置ノ曉

ニハ在留華僑ノ總テハ領事ノ保護ニヨリ台湾

官憲ニ對シ如何ナル要求ヲモ貫徹シ得ベシ等

丙部

502.4/2/13

8 13.1.5.0 -7

29

8 13.1.5.0 -7

28

領事館ノ效果ヲ誇大ニ吹聴シ居ル事實モア

リ一方支那本國ノ現状ニ徴シ其ノ本館タルト分

館タルトヲ問ハズ所謂支那政府(南北ヲ問ハズ)ヲ

代表スル領事館ナルモノガ設置サレ如何ハシキ

支那官吏ノ駐台ヲ見ルニ至ラバ前記華僑ノ素

臺灣總督府

質ト相俟テ時節柄徒ラニ平地ニ波瀾ヲ起スノ結

果ヲ招致スルモノト觀察セラルルノミナラス惹テハ

民族主義ヲ抱ク一部本島人ト纏綿タル關係ヲ生

スル虞ナレトセバ依テ當府ハ本問題ノ推移ニ

顧ミ又治安上ノ見地ヨリ此際此ノ種機關ノ設

置ヲ喜ハズ此ノ特殊ノ事情御了解上本件
 解決方ヲ希望ス尚駐台國籍證書薦員ニ関
 シテハ領事館設置問題ノ成行如何ニ不拘當府
 ハ往電第一事既引証ノ拙信中ニ申進メタル態
 度ヲ持スル外ナキニ付之亦御含置アリ度シ

臺灣總督府

總出第	號	昭和三年二月十一日	午前	時	分受 主任
宛	後藤總務長官	發信人	豊田長官代理	電報譯文	支那領事館設置問題ニ関スル左記電
報甲号ニ對シ乙号ノ通リ及電アリタルニ付	丙号ノ通商下ヨリ外務大臣ニ傳ヘラレ度	ニ依命	白	局長	(寫)

臺灣總督府

§ 13.1.5.0 -7

33

一、新様
二、直而目サ
三、カスパービ
四、カスパービ
五、カスパービ
六、カスパービ
七、カスパービ
八、カスパービ
九、カスパービ
十、カスパービ

寫送先

大臣
電信課長
次官
會文人情條通歐亞細亞
計書事化報約商米

5024.12.14

昭和3	一四三〇	平	臺北	十三日後發	通一
本省	二月十三日後着				
田中外務大臣					
第一〇號（臺北ニ支那領事館設置ニ關スル件）					
貴電第八號ニ關シテハ在京後藤長官ヨリ申出ツル答ニ付御了知ア					

外務省

8 13.1.5.0 -7

34

公信案

外務省

件名	台北ニ支那領事館設置ニ關スル件	綴	名	込	綴
受信人	杉内務次官	發信人	出岡次官		
管主	通商局長	主	第一編		
文書課發送	昭和三年一月五日	發送	淨書	（山）	（淨書）
（起草）	昭和三年一月五日	正校	（原稿）		（淨書）
附屬書	通				

文書課長

公信案

別紙

（中號用紙）

5024.12.14

6 13.1.5.0 -7

35

31 68

事件係着
長田

文書課長		文書課發送		主 任		（起草昭和三年一月三日）		（甲號用紙）	
機密令		第 號		大正 年 月 日		附 局 書 通			
受 信		在支芳匠公使 坂本厦内使		發 信		田 中 大 臣			
人 名		矢田上松 松坂幸 別村 松坂幸		名		田 中 大 臣			
件 名		北支那回國船隻検査要件		名 込 綴					
本件之由と本月十日台博總督を後外總務長 官より別紙甲号出ノ通り来電ノ次第アリタル 乙は別紙乙号出ノ通り田電に基きより委曲右ノ 公 信 案									

外 務 省

6 13.1.5.0 -7

37

曲右ニテ市子知相成致シ

別件台博後外松公長官来電 方一見度ノ申号トシ今長官先 出因次官松電機ニ号トシタ 字一新此係は送附ノヲト									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

（成號用紙）

6 13.1.5.0 -7

36

M-0210

0027

ア市了ち相成至シ

別添台後及公長官來電一
官ヲ甲号トシ今長官死出別次官
要字ヲ乙号トシ右一節先付送
附下

(成號用紙)

S 13.1.5.0 -7

38

通商手続書

(赤 梓 紙)

◎在台北支那國領事分館新設ニ關スル件

昭和參年壹月廿五日

一今日迄支那國ハ何故台灣ニ領事館ヲ設置セサリシヤ右ニ付徹スヘ
キ記錄見當ラス

ニ現在台北ニ駐在スル外國領事左ノ如シ

北米合衆國領事 Mr. Charles L. Devault

英國代理領事 Mr. P. C. Nicolis (Pro-Consul)

和蘭國名譽副領事 Mr. P. C. Nicolis

ニ客年十一月十九日附書翰ヲ以テ在本邦支那公使ヨリ台灣中華總會
館長高銘鴻ヲ僑務局辦理華僑國籍證明書駐台專員ニ任命スヘキ趣
申越アリタル處領事官以外ノ者ニ國籍證書發給ノ權限ヲ承認スル
コトハ理論上及慣例上面白カラサリシテ以テ之カ承認ヲ躊躇シ居

外 務 省

S 13.1.5.0 -7

39

0028

(赤 梓 紙)

リタル處次爾本年一月四日ニ至リ北京政府外交部ヨリ日支通商條
約第三條ニ基キ台灣ニ支那國領事館設置承認方希望申越タル旨
支芳澤公使ヨリ電報アリタリ
然ル處我方ハ北京政府ヲ承認シ居ラサル關係上若シ北京政府カ台
灣ニ獨立ノ領事館ヲ新設シタル場合ニハ忽チ此認可狀奏請ニ當リ
困難ヲ生スヘク思考シタルヲ以テ直ニ芳澤公使ニ電報シ現在台灣
ヲ管轄スル神戸總領事館ノ分館ヲ台灣ニ設置スル方都合宜シカル
ヘキ旨北京政府ニ對シテ德憑セシムルト同時ニ右台灣ニ於ケル領
事館設置ノ申出ニ依リ國籍證書處專員任命ノ問題ハ自然消滅ニ歸
スルモノト了解スル旨念ヲ推サシメタリ
之ニ對シ北京政府外交部側ハ部員ヲシテ芳澤公使ニ對シ台北ニ分

外 務 省

S 13.1.5.0 -7

40

(赤 梓 紙)

館ヲ設置スルコト及之ト同時ニ國籍證書處專員任命ノ件ハ自然消
滅ニ歸スヘキ旨回答セシメタル旨本月二十日芳澤公使ヨリ電報ア
リタリ

右令錄設置ニ付テハ當方ノ内諾得タリ
又北京政府ハ之ニ對シテ正當ニ申出アセリ

外 務 省

S 13.1.5.0 -7

41

後援

通一宮崎

電信案

電信課長澤田

主管主任

(起草昭和三年一月廿二日)

(原議用紙甲) 開納

亞細亞局長

印

亞細亞局

第二課長

事務官

如左由郵局(郵便)

宛

台北支那國領事館設置ノ事ニ付

台北總領事館

名込綴

出頭次官

附

第

號

貴電第百五十四號

署名

北京政府ヨリ在支公使ニシテ台北ニ支那國領

事館ヲ設置シ旨申出アリケンガ我方ニ於テハ

北京政府ヲ承認シ居ラレリテ之ヲ拒否スルモ

電信案

外務省

8 13.1.5.0 -7

42

電送第640號
昭和三年一月廿六日午後六時〇分發

502A.12/1A
乙部

(原議用紙乙) 開納

差支ナキ筋合ナルモ表面上ニテ理由トシテ拒絶スルハ

外交上種々面白カラシク關係アリサト云ハ日支通

商條約第三條ノ規定註台北ニ既ニ他國ノ領

事館駐在シ居ルニ鑑ミ他ニ拒否ノ理由ナキニ付

理ニ今地方ヲ管轄スル在神戶支那領事館ヲ

ノ分館又ハ出張所トシテ之ヲ認ムル事ニ決意シ在

支公使ヲシテ之ヲ承認スル事ニ決意シ在

電信案

外務省

8 13.1.5.0 -7

43

外務省

(原議用紙乙) 庭納

44

右ハ固ヨリ支那人一流ノ宣傳的主張ナルヘキモ當地ニ於ケル支那側外
交機關タル交渉員林實ノ如キモ幾ニ南國公司ノ移民取扱問題ニ關聯シ
本官ニ對シ平然トシテ同議ノコトヲ主張シタルコトアルノミナラス該
交渉員ハ渡台支那人ニ對シ自己ノ發給セル旅券ニ日本領事力査證スル
以上本人ハ無條件ニテ台灣ニ上陸シ自由ニ居住營業スルコトヲ許可セ
ラレサルヘカラストナシ甚シキニ至リテハ林交渉員ハ渡台支那人中外
國人入國ニ關スル件大正七年府令第七號並支那勞動者取締規則（明治
三十九年府令第六八號）ニ依リ雖々往々上陸ヲ禁止セラレ若クハ取
調ヲ受タルモノアルコトヲ以テ實直ニ日本側ノ條約違反ナリト曲解シ
本官ニ於テ如何ニ條約ヲ盡シテ説明ヲ與フルトモ彼等革命黨員ノ願裡
ニ刻ミ込マレタル一種ノ偏見即所謂反帝國主義、反不平等條約ノ思想
ヨリ脱スルコトヲ得ス殆ト當惑シ居レル次第ナルカ外交機關タル交渉
員ニシテ既ニ斯ノ如シトセハ其他ノ支那官憲及一般人民ニ至リテハ正
常ナル台灣官憲ノ保護取締ヲ以テ直ニ不法壓迫呼ハリヲナスコト敢テ
怪シムニ足ラス從テ前記領事館設置說モ或ハ事實カト思料セラレハ
處台灣在留支那人（約八・九万ニ達スト云フ）ノ大部分ハ福建人ニシ

5024/2/11

本月六日北京發新聞電報ハ北京政府ハ今回台灣ニ領事館ヲ設置スルコト
トナリ帝國政府ト交渉中ナル旨報シ居レル處之カ眞偽ハ別トシ從來屢次
當地支那新聞紙上ニ於テ台灣在留支那人カ革命政府並省黨部ニ對シ台灣
ニ領事館設置方請願セル事實ヲ發見セリ右ニ關シ本官ハ未タ何等交渉ヲ
受ケタルコトナシ其理由ハ在留支那人カ台灣官憲ヨリ不當ノ取締壓迫ヲ
受ケツ、アレ共現在各主要地ニ及於ケル中華會館其他ノ支那人代表機關
ハ支那人ノ權利利益ヲ維護スルニ不十分ナルヲ以テ領事館設置ノ要アリ
ト云フニ在リ（別紙十二月二十日民國日報切抜参照）

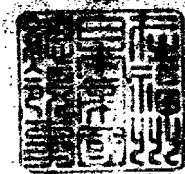
外務大臣男爵 田中 義一 殿

台灣ニ支那領事館設置運動ニ關スル件

在福州

總領事

西澤 義



通商局 第一課
機密第一九號

昭和三年一月十三日

昭和三年一月廿五日

附屬書

テ勞働階級ニ屬スルモノナルモ從來南洋方面ニ於ケル華僑ヲ一ツノ主
要ナル財源ト看做シ居レル革命政府トシテハ在臺灣華僑ニ對シテモ同
様ナル見解ヲ有スヘク從テ革命政府トシテハ北京政府ニ依リ台灣ニ新
ニ領事館ヲ設置セラル、コトヲ好マス或ハ反對スルヤモ知レサルカ右
領事館設置就カ愈々實現ノ曉ニハ革命政府治下ニ在ル當地支那官憲ハ
豫テ目論見居レル前顯南國公司ノ支那人勞働者取扱手續料等ヲ自ラ徵
收スルタメ今後一層執拗ニ南國公司ヲ目シテ支那行政權侵害ナリト主
張スルニ至ル處アルノミナラス他面將來台灣本島ニ於テモ支那領事館
ハ在留支那人並台灣本島人中ノ一部不良分子ノ活動ニ利用セラル、コ
ト無キヲ保シ難ク此ノ邊ハ勿論本省及臺灣總督府ニ於テモ十分御考慮
ノコト、存スルモ本件ニ關スル當地地方ノ狀況報告等河等御參考迄卑
見具申ス

寫發附先

公使・上海・廣東・廈門・汕頭
臺灣總督

S 13.1.5.0 -7

47

台灣華僑領事館

推舉代表回省向交涉署請願
福建社云省黨部昨接交涉員來函以據
台灣中華會館代表到署請願請准設
駐台領事或酌派商務代表處理保護旅
台華僑事務請省黨部轉陳中央協力促
成茲將原函錄次逕啓者本年五月間據
台灣中華會館函稱查台灣自被日本割
據以來對於台民概取高壓手段其最足
使人怵目驚心者莫如消滅其文字變更
其語言使全台土著爲所同化不知其原
爲中國人民者即我國人之僑居該地從
事經商或勞動工作無論其是否久居其
地抑係初次入境而彼方均爲設種種不
平等之嚴厲限制甚至有擯拒前來因限
于苛例或被警吏私意挑剔而不能登陸
者往返徒勞動輒得咎忍氣吞聲無可告

在福州日本總領事館

訴而北庭復據於帝國主義者祇知媚外
不恤僑艱難於請求設領保護之舉置若
罔聞致彼邦益肆其淫威殘暴凡屬華僑
不問是非曲直稍有細故無不非法凌虐
以奴隸待遇此實海外華僑中而台灣華
僑爲最不幸者矣今奉國民政府弔民伐
罪毅然出師數月以來奄有全國三分之
二內掃殘民媚外之軍閥外謀國際之平
等如收回漢口九江之租界爲中國八十
年來外交上之第一曙光也循此以進則
帝國主義者自可戢其野心而我國之國
際地位亦必躋于平等旅居僑民罔不額
稱慶但此間情形異常慘痛非筆墨所能
盡其萬一自我國政府與僑民向極隔閡
亦不能不加以溝通藉使內外相維各竭
其責故本會現經召集全台灣僑代表大
會議決推舉代表即日回國詣署請願合

S 13.1.5.0 -7

48

先函請查照僑情俾達保護目的不勝感激之至等語即經函復並請其速推代表前來接洽嗣于九月間接到會館便函並推定代表到署面陳現該代表等業已抵閩據稱台灣華僑約七八萬人之多其中閩粵籍者占十之八九而閩人則尤屬多數故不能不自本省請願始並謂日本政府對於旅台之華僑以台灣領土原由中國移轉之關係則一舉一動莫不加以防範遂致越國際待遇外僑之常軌而設有種種特殊之縛束又以我國無駐台領事欲魚肉則魚肉之欲奴隸則奴隸之北庭已矣惟有希望我國政府本黨先總理求中國自由平等之目的及吾黨外交之策畧力向日政府嚴重交涉添設駐台領事或酌派商務代表處理保護旅

台華僑事務傳數萬無告之僑胞有所托命等語該代表等言後聲淚俱下殊堪憫惻當經敕交涉員加以安慰並謂我國政府外交當局對於國外僑胞之疾苦異常關懷舉凡有益于僑者祇要事屬可能無不阻勉以赴請轉致全台僑胞容忍新吏辭候請示辦理現該代表等擬即先行返台報告藉安衆心敕交涉員竊以為該代表等所謂添設駐台領事一節目前自難見諸事實惟所陳旅台僑民之痛苦情形各節既為身歷目擊之談則自屬毫無僞飾據陳前情應如何設法救濟之處除呈請政府外交部暨福建省政府核示辦理外相應函請貴部查照轉陳中央黨部請求協力催促俾有所成以慰僑望無任盼盼

民國口報

四

(赤 梓 紙)

譯文(福州民國日報 昭和二年十二月二十七日)

臺灣在留支那人領事館設置方願出ノ件

代表ヲ推舉シテ歸國交渉署ニ願出ツ

交渉署ヨリ

昨日省黨部ニ宛テ臺灣中華會館代表來署シ國民政府ニ於テ臺灣ニ領事ヲ置クハ商務代表ヲ特派シテ華僑事務ヲ處理セラルル様被致度省黨部ヨリ中央ニ稟申シ協力促成アリ度キ旨願出ノ次第アリタル趣通知越セル處右ニ依レハ本年五月中臺灣中華會館ヨリ臺灣カ日本ニ割讓セラレテ以來日本ハ臺灣籍民ニ對シ常ニ壓迫政策ヲ採リ就中彼ノ用語ヲ變更シテ全土著人ヲ同化シテ元來中國人民タリシコトヲ知ラサラシムルニ至リタルカ如キハ其最モ甚タシキモノナリ即チ我

外 務 省

S 13.1.5.0 -7

50

(赤 梓 紙)

國人同地ニ在留シテ商工業或ハ勞働ニ從事スルニ當リ其在留久シキト或ハ初メテ入境スルト否トニ拘ラス彼等ハ種々不平等ノ嚴重ナル制限ヲ設ケ甚シキニ至リテハ寫眞ヲ持シ來リテ苛例ヲ適用シ或ハ變更任意ニ種々ノ難僻ヲツクルニ因リ上陸スル能ハサルモノアリ往復徒勞ニ歸シ動ケハ朝チ答ヲ得強テ之ヲ抑フト雖モ訴フルニ所ナシ而シテ北京政府ハ又帝國主義ニ脅エ唯外國ニ媚ヒルヲ知ルノミニシテ僑艱ヲ救ハントセス領事館ヲ設置シ以テ在留民ヲ保護センコトヲ請フト雖モ聞クナキカ如ク益々彼等ノ淫威殘暴ヲ肆ニスルヲ致ス凡ソ華僑ニ屬スレハ是非曲直ヲ論セス苟モ細故アレハ不法ニ凌虐シ奴隸ヲ以テ待遇セサルナシ是海外華僑中臺灣華僑ノ最モ不幸トスル所ナリ今國民政府羣民ヲ弔シ罪ヲ伐タントシ毅然トシテ師ヲ出シ數月既

外 務 省

S 13.1.5.0 -7

51

M-0210

0035

ニ全國ノ三分ノ二ヲ奄有シ内ニ殘民媚外ノ軍閥ヲ一掃シ外ニ國際ノ平等ヲ謀リ漢口、九江ノ租界ヲ回收シタルカ如キハ中國八十年來ノ外交上ノ第一曙光ナリ斯クシテ進マハ帝國主義者ハ自ラ其ノ野心ヲ斂メ我國ノ國際地位亦平等ナルニ至ルヘク在外居留民ノ稱贊セサルモノアラシヤ但シ此間ノ情形ハ甚タ悲慘ナルモノニシテ能ク筆墨ノ盡ス所ニアラス且ツ我國政府ハ從來ノ僑民トノ疎隔ヲ除キ内外其責ヲ盡ササルヘカラス故ニ本會ハ全臺華僑代表大會ヲ召集シ代表ヲ推舉シテ即日歸國セシメ交渉署ニ參上請願セシムルニ決シ不取敢茲ニ書簡ヲ以テ豫メ及稟請次第ニ付何卒僑民ノ窮狀ヲ察シ保護ノ目的ヲ達セラレンコトヲ請フ旨申出テアリ仍テ本交渉署ヨリハ直チニ代表ヲ選定シ出頭方申送りタルカ九月中代表ヲ選定シ出頭セシメタル

(赤
梓
紙)

外
務
省

6 13.1.5.0 -7

52

旨回答セシカ現ニ該代表等ハ既ニ本署ニ來リ臺灣在留ノ支那人ハ七八萬ノ多キニ達スル處廣東人福縣人其ノ八九割ヲ占メ就中福縣人最モ多數ヲ占ムルカ故ニ自然先ツ本省ニ請願ヲ始ムルヨリ外ナク且ツ日本政府ハ臺灣カ原中國ニ屬シタル關係上在留支那人ニ對シテハ其ノ一舉一動ニ付監視ヲ怠ルヘカラサルヲ言トナシ遂ニ國際的外人待遇ノ常軌ヲ逸スルニ至リ種々特殊ノ束縛ヲ設ケ又臺灣ニ我國領事無キヲ以テ魚肉ヲ欲スレハ之ヲ魚肉トシ奴隸ヲ欲スレハ之ヲ奴隸トス而モ北京政府ハ之ヲ顧ミントセス吾人ハ唯我國民政府カ中國ノ自由平等ヲ要求スル前總理ノ目的並ニ我黨ノ外交策略ニ基キ日政府ニ向ツテ嚴重ニ交渉シ駐臺領事ヲ設置スルカ或ハ商務代表ヲ特派シ在留支那人ノ保護事務ヲ處理セシメ以テ虐ケラレ居ル同胞ヲシテ命ヲ托

(赤
梓
紙)

外
務
省

6 13.1.5.0 -7

53

スル所アラシメラレタシト述へ聲淚俱ニ下リ殊ニ憫然タリ仍テ本交
渉員ハ之ヲ慰メ我國民政府外交當局ハ在外僑民ノ疾苦ニ對シテハ常
ニ心ヲ用ヒ苟モ僑民ニ益スルモノナルニ於テハ一モ之カ達成ニ勉メ
サルナシ就テハ其旨ヲ全臺ノ僑民ニ傳へ靜ニ辦理ヲ俟ツヘキ旨申聞
ケ置キタルカ現ニ該代表等ハ之ヲ諒トシテ歸臺右ノ次第ヲ全僑民ニ
報告シテ其ノ意ヲ安セン^ントシ居レリ本交渉員竊ニ思フニ該代表等
ノ請願ニ係ル臺灣駐在領事設置ノ件ハ今直チニ之ヲ實現シ難シト雖
モ其ノ述フル所ハ吾人ノ屢々目撃スル所ニシテ毫モ虛飾ナキ所ナリ
何等カ法ヲ設ケテ之ヲ救済スヘキモノト思考シ茲ニ國民政府外交部
及福建省政府ノ考慮辦理ヲ請フト共ニ貴黨部ニ其意ヲ通シ協力促成
ヲ希望スル次第ナリ

外
務
省

54

沢文 (論議) 子と果の和事 (二) (成 用 紙)
 台湾に在る人、領事館に出入り、件
 代表の推挙と、協定交渉署に願ふ事
 交渉署より
 昨日、台湾中華總代表、省黨部宛、台湾中華
 總代表、省黨部に、國民政府に於て、台湾に
 り、五ヶ力、或ハ、高橋代表、う、特派し、華僑を
 處理せらる、按、省黨部、都より、中央に、協力し、促
 成、中、省黨部、出入り、う、中、省黨部、出入り、う、
 右、左、

8 13,1,5,0 -7

55

既之全西ノ三分ノ二ヲ占有シ由之華僑外ノ軍
 内ノ一掃シ外ノ國際ノ平等ヲ謀ル漢口九江
 ノ租界ヲ回收シタルハ中東ノ十年來外交上
 ノ才一曙光ナリ此之循テ進ムハ即チ中華
 主義者ハ自ラ其野心ヲ歛メ我々ノ實際地位
 亦平等ナルニ至ルナリ在外居留民中稱難者
 然レ此向ノ情形ハ甚カ悲慘ナリ也一

(成號用紙)

S 13.1.5.0 -7

59

セズ領事館ヲ設置シ以テ在外僑民ヲ保護スルヲ請
 フト雖モ南ヲナリカ如キハ何等カ漢口漢口
 譯ニ入ルヲ欲ス凡ソ華僑ノ屬スレハ是非曲直ヲ
 論スル苟モ細故アレバ我々ニ凌虐シ如キ
 以テ待遇セザルナレ是ハ海外華僑中台灣華僑
 ノ最モ不幸トスル所ナリ今國民政府難民ヲ
 平ニ罪ヲ伐タントシ毅然トシテ節制スルハ

(成號用紙)

S 13.1.5.0 -7

58

M-0210

0039

中支關係に關係上在支支那人の對する其の
 一舉一動の監視の如きものがあることは
 遂に國際的外人待遇の常軌を逸するに至り
 種々特殊の束縛が設けられ又我々の台灣の物
 資の輸入に對する莫大の障礙を設けられ
 奴隸の如きものになり奴隸ト云ふに至る北京政府
 は之を顧みんとせざるに人々唯我々の民政府が

(成號用紙)

中支、自由平等の目的に對し前總理の目的並
 に我々の外交政策の基は日政府の向うと
 嚴重の交渉に駐台領事の設置を以て力強く
 勢代表の特權に對し在支支那人の保護
 事務の處理を以て同胞の
 生命の安全を以てしめしめんと述べ
 聲を疾呼して之を強う恫喝し我々の平定時局ハ

(成號用紙)

電信課長

大臣

次官

亞細亞 通商 條約 文化 人事 文書 會計

寫送先

502 A12116

昭和3 五四四 暗

臺北 本省

十八日後發 一月十八日後着

亞、通

田中外務大臣

後藤總務長官

第一號

臺灣ニ支那領事館設置ノ儀北京政府ヨリ公使ニ正式交渉アリ外務省於テ御考慮中ノ由新聞紙上ニ散見スル處本件ハ臺灣ニ重大ナル關係アルノミナラス現狀ニ於テハ其ノ實現ハ時機ヲ得サルモノト思考セラルルニ付萬一事實ナリトセハ豫メ臺灣總督府ノ意見ヲ徵スルコトトセラレタシ尙本問題ハ臺灣ニ於ケル中華會館幹部一味ト北京教務局員ト稱スル施文杞ハ生來ノ臺灣人ナルモノ策動ノ結果ニ外ナラサル様思ハル左ノ諸點御注意迄ニ通報ス

外務省

6 13.1.5.0 -7

66

一 在臺支那人約三萬其ノ大部分ハ福州廈門ヨリ渡來シ居ル南方勢力範圍ノ住民ナリ

二 前記一味策動者ハ領事館ノ設置ヲ北京ニ運動スルト同時ニ南京政府ニモ運動シ居ル事實アリ

三 彼等ハ北京當局ハ在臺華僑力費用ノ全部ヲ負擔スルニ於テハ設置可能ナリト答ヘタル由語リ居レリ

四 施文杞ハ滯臺中文化協會派ト密接ノ連絡ヲ採リタル處領事館設置實現ノ曉ニハ彼力領事タラント運動シ居ルコト及在臺華僑有力者中ニモ自薦者アルモノノ如ク聞ク

右ノ如キ事情ニ付本問題ニ關シテハ深甚ノ考慮ヲ要スルモノト認めラル尙昨年九月十四日附官文第六四四號北京教務局ヨリ駐臺辦

外務省

6 13.1.5.0 -7

67

寫送先

會文人情條通歐亞
計書事化報約商米

大臣
次官
官場

電信課長

502/12/11

中澤自
中澤自

館員ヲシテ外交部當局ニ婉曲ニ申入レシメタルニ十九日同部員ヨ
リ口頭ニテ臺北ニ分館ヲ設置スルコトニ致シタク國籍證書處專員
ノ件ハ右解決ニ依リ自然消滅トナルヘキ旨申出アリタリ御承認ア
リタル上公文ヲ提出セシムル筈

貴電第一四號ニ關シ

第七九號

田中外務大臣

芳澤公使

昭和3 六四二 暗

北京 本省

二十日後發
一月二十日後着

通一

S 13.1.5.0 -7

69

外務省

理國籍掌書專員ナルモノ任命ノ件ナル拙信及大正十五年十一月十
七日附外務大臣宛公使機密第一三〇五號信參照アリタシ

S 13.1.5.0 -7

68

M-0210

0044

電	信	案	外	務	省
付テハ貴官ヨリ右婉曲ニ北京政府ニ懇通シ設置ノ場所ヲ指定シ 改メテ右申出ヲナサシムル極力配慮アリキ 尙當方ニ於テハ本件ハ單獨解決ヲ計リ差支ニナク意郷ニ付 口含ミアリキ又客年未当地支那公使ヲ通シ申出タル台湾 ニ於ケル國籍證書處專員ハ本件解決ニ依リ自然消滅ニ及ス ルモノト了解ス知レノ矣爲今ハ確ノ置リカシ當客年ニ 月当地支那公使ヨリハ台湾ヲ在神戶駐在アル貴轄内トス旨 通知被タルニトアリハ参考スル申添フ					

8 13,1,8,0 -7

71.

政務次官 大官 亞細亞局長 亞細亞局	主 任 通商局長 主 任 （起草大昭和 華年壹月拾日）	件 在 支 那 支 那 國 領 事 館 新 設 ノ 件 名 込 綴	宛 在 支 那 公 使 發 田 中 外 務 大 臣	第 一 號	北京政府 北京政府ト切テオシムル事 鑑ミ 台灣ニ 獨立ノ 領事館設置ハ	御認可 御承認 在 神 戶 支 那	總領事館等ノ 分館又ハ 出張所トシテ之ヲ認ムコト、シテ
--	---	---	---	--------------	--	---------------------------------	------------------------------------

8 - 13.1.5.0 -7

70

記

寫送先

大臣 次官 電信課長 亞細亞通商條約文化事務會

電信課長 澤田

502.41211

昭和3 五一 暗

北京 本省

三日後發 一月四日前着

亞、通

田中外務大臣

芳澤公使

第一號

十二月一日附テ以テ外交部ヨリ現在臺灣地方ニハ在留支那人多
日支ノ經濟關係モ漸次密接トナリタル爲日支通商航海條約第三
條ニ基キ臺灣（特ニ地名ヲ明記シ居ラス）ニ領事館ヲ設置シ度キ
旨照會シ越セリ右支那側ノ申出ハ條約上正面ヨリ拒ミ得サルモ北
京政府現在ノ「ステイタス」モ考慮スル必要モアリ又帽兒山及洮
南等ノ懸案モアル次第ニ付場合ニ依リテハ之ヲ利用スルコトモ一
策ナルヘキヤニ思考ス就テハ御考慮ノ上何分ノ回答振御同訓アリ

外務省

6 13.1.5.0 -7

72

タシ 委細郵報

外務省

6 13.1.5.0 -7

73

M-0210

0046



外交 總長 王 爲

照會事現因臺灣地方華僑衆多商務繁盛中日經濟關係漸趨密切兩國貿易額數逐年遞增中國政府認爲有在該處設立領事館之必要案查中日馬關條約第三條載有中國可設立總領事領事副領事駐劄日本國現准及日後准別國領事駐劄之處之規定中國政府擬即本此意旨在臺灣設立領事館相應照會

貴公使查照並希轉達

貴國政府爲荷須至照會者

右 照 會

大日本國欽命駐華全權公使芳澤

中華民國十六年十二月三十一日

在北京日本公使館

S 13.1.5.0 -7

75

(分類 M165.0.3-8)
500A/2114

臺灣亞細亞

機密第一號

昭和三年一月四日

在 支 那

特命全權公使 芳 澤 謙

外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

臺灣ニ於ケル支那領事館設置ニ關スル件

本件ニ關シ往電第一號ヲ以テ稟請シタル處十二月三十一日附外交總長來翰寫及右譯文送附スルニ付委細別紙ニ依リ御了承相成度此段申進ス

別紙添附

吉

在北京日本公使館

S 13.1.5.0 -7

74

M-0210

0047

M 13.0.8-8



在本邦支那領事館増設等ニ關スル
在本邦支那公使館參事官ト谷亞細亞局第一課長トノ會談要領
昭和四年八月八日在本邦支那公使館江參事官來省谷亞細亞局第一課
長トノ間ニ次ノ如キ會談ヲ交ヘタリ
一先ツ江參事官ハ支那國民政府ニ於テハ現在臺灣ニ於ケル支那人ノ
數約十萬ニ達シ之等支那人ノ保護等ノ事務相當多キ事實ニ顧ミ臺
北及臺南兩市ニ新ニ領事館ヲ開設シタキ希望ヲ有シ居リ既ニ別途
書面ニテ申出置キタリト述ヘ
一又支那ハ從來朝鮮仁川ニ領事館ヲ有シタル處右領事館ハ之ヲ廢シ
之ヲ京城領事館ニ併合スルト同時ニ新ニ清津ニ領事館ヲ設置シタ
キ希望ヲ有スル旨ヲ述ヘタルニ付谷課長ハ右一ノ場合同様書面ヲ

外務省

45

6 13.1.5.0 -7

77

芳澤公使宛

外交總長 王 蔭 泰

中華民國十六年十二月三十一日

(譯文)
以書翰致啓上候陳者現ニ臺灣地方ニハ在留支那人甚タ多ク商務繁盛
ニシテ日支經濟關係モ漸次密切トナリ兩國ノ貿易額亦逐年増加シ來
レルニ付支那政府ハ同處ニ領事館設立ノ要アリト認メ居レル處日支
馬關條約(通商航海條約ノ誤?)第三條ニ依レハ支那ハ日本國內ニ
於テ他國ノ領事カ現ニ駐在シ若ハ將來駐在スヘキ場所ニ總領事、領
事、副領事ヲ駐在セシムルコトヲ得ル旨ノ規定アルニ付支那政府ハ
右意旨ニ基キ臺灣ニ領事館ヲ設立スルコトト致度候條御承知ノ上貴
國政府ニ御轉達相成度此段照會得貴意候
敬具

在北京日本公使館

6 13.1.5.0 -7

76

M-0210

0048

以テ申出ラレタク右書面接到ヲ待テ關係當局協議ノ上挨拶スルコ
トトナルヘキ旨ヲ答ヘタリ

又更ニ同參事官ハ朝鮮平壤ニ書報社ナルモノアリ右ハ主トシテ支那
人ノ讀書閱覽所ナルカ最近同社ニ上海ヨリ三民主義關係ノ書籍十
六冊送付セル處朝鮮警察官憲ノ爲沒收セラレタリ右ハ何等主義傳
播ヲ目的トセス只支那人ノ爲ニ讀書ノ便宜ヲ計ラントスルモノナ
レハ是非許可セラルル様取計アリタキ旨述ヘタルニ付谷課長ハ何
レ朝鮮當局ト協議ノ上何分ノ返答ヲナスヘキ旨答ヘタリ

(赤神紙)ナ

外務省

45
S 13.1.5.0 -7

78

又尙同參事官ハ仰高、林進奎ト周子興トノ確執ノ結果トシテ(註、
右林兩人ハ周ニ對シ資金返還ノ告訴ヲ提起シ警察廳ニ於テ右告訴
ニ關聯シ林兩人ヲモ取調ヘタルニ七月二十三日多數支那人ハ林等
ノ煽動ニ依リ在本邦支那公使館ニ押寄セタル事件アリ右ニ關シ周
子興ハ支那ニ送還セラレタリ)林兩人モ本日支那ニ送還セラレタ
ル趣ナルカ支那側トシテハ支那人同志ノ爭鬭ノ結果トシテ日本政
府ヨリ行政處分ニ處セラルルハ其ノ意ヲ得サル旨述ヘタルニ付谷
課長ハ日本政府ハ國內ノ治安維持秩序保持ノ爲メ必要ト認ムル時
ハ何國人タリトモ之ヲ取締ルヘク例ヘハ在本邦支那公使館ニ支那
人ノ暴徒押寄セタルカ如キ場合ニハ日本政府ハ當然之ヲ取締ルヘ
シ右林兩人ノ場合モ結局送還處分ヲ受クルニ相當スルモノト認メ

(赤神紙)ナ

外務省

46
S 13.1.5.0 -7

79

寫

敬啓者奉本國政府訓電現因僑務處理上之便宜決定將我國駐仁川領事館撤廢所遺事務歸併京城總領事館辦理另於清津地方增設領事館處理僑務屬商請
貴國政府同意茲特備函佈達又我國擬在臺南台北兩處設置領事館曾於本月五日函達在案以上兩案統祈
貴大臣早予贊同見復以資實現不勝感荷 頌助祉
右致

日本外務大臣男爵幣原喜重郎 閣下

中華民國特命全權公使 汪 榮 寶

中華民國十八年八月八日

外
務
省

12.2

S 13.1.5.0 -7

81

ラルル旨説明シタルニ同參事官モ首肯セリ

(赤 押 紙) ナ

外
務
省

4.5

S 13.1.5.0 -7

80

M-0210

0050

在南京日本領事館

右何等御參考迄報告ス
本信寫送付先 在支公使 上海總領事

S 13.1.5.0 -7

91

在南京日本領事館

外務大臣男爵 田中 義一 殿
在臺灣華僑ノ領事館設置運動ニ關スル件
今般國民政府文官處ハ臺灣華僑代表周炳章等ヨリ在臺灣華僑ノ商業保護
ノ爲同島ニ領事館ヲ開設セラレ度旨並不平等條約廢止主權擁護ニ力ヲ致
サレンコトヲ希望スル等ノ旨來翰ニ接シタルヲ以テ右外交部宛移牒ニ及
ビタル趣本月二十三日附ノ當地漢字紙ハ報道シ居レリ

S 13.1.5.0 -7

90

郵細亞局

通商局

通送第四二三號

昭和四年六月二十五日

在南京

領事

岡

本

一

策



通商局

第一課長

昭和四年七月八日 接受

M-0210

0055

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

在臺灣支那領事館設置問題經過概要

昭和四年六月二十七日調査

昭和二年十一月十九日附書翰ヲ以テ在本邦支那公使ヨリ臺灣中華總
會館長高銘鴻ヲ在臺支那人ニ對スル國籍證明書發給者（僑務局辦理
華僑國籍證明駐臺專員）ニ任命スヘキ旨申越アリタル處領事館以外
ノ者ニ國籍證明書發給ノ權限ヲ承認スルコトハ理論上及慣例上面白
カラサル爲本省ニ於テハ之カ承認ヲ躊躇シ居タル處大テ昭和二年十
二月三十一日附ヲ以テ北京外交部ヨリ芳澤公使ニ對シ日支條約第三
條ニ基キ臺灣ニ支那領事館設置承認方申越セリ
然ル處我方ハ北京政府ヲ承認シ居ラサル關係上若シ北京政府カ臺灣
ニ獨立ノ領事館ヲ新設シタル場合如何チ其ノ認可狀奏請ニ當リ困難ヲ

外務省

S 13.1.5.0 -7

92

（亦抄紙）ナ

生スヘク思考シタルヲ以テ直ニ芳澤公使ニ電稱シ現在臺灣ヲ管轄ス
ル神戸總領事館ノ分館ヲ臺灣ニ設置スル方都合宜敷カルヘキ旨北京
政府ニ對シ建議セシムルト同時ニ右臺灣ニ於ケル領事館設置ノ申出
ニ依リ國籍證書處專員任命ノ問題ハ自然消滅ニ歸スルモノト了解ス
ル旨念ヲ推サシメタリ

之ニ對シ北京外交部側ハ部員ヲシテ臺北ニ分館ヲ設置スルコト及之
ト同時ニ國籍證書處專員任命ノ件ハ自然消滅ニ歸スヘキ旨回答セシ
メタリ

超エテ一月十八日臺灣後藤總務長官ヨリ本問題ハ臺灣ニ於ケル中華
會館幹部一味ト北京僑務局員ト稱スル施文祀（生來ノ臺灣人自身領
事タラムトノ野心ヲ有ス）ナル者ノ策動ノ結果ニ外ナラサルカ如キ

外務省

S 13.1.5.0 -7

93

ノミナラス在臺支那人約三万人ノ大部分ハ福州厦門方面ヨリ渡來セ
ル南方勢力國內ノ住民ナル爲前記一味ノ策動者ハ南京政府ニ對シテ
モ同時ニ運動シ居ル事實アリ加之右三万人ノ大部分ハ無智ノ勢力階
級ニ屬シ今同運動ノ衝ニ當レル少數華僑成功者ハ領事館設置ノ圖ニ
ハ在臺華僑ノ總テハ領事ノ保護ニヨリ臺灣官憲ニ對シ如何ナル影響
ヲモ負徴シ得ヘシ等ノ宣傳ヲ爲シ居リ一方支那本國ノ現狀ニ徴シ其
ノ本館タルト分館タルトヲ問ハス所關支那政府ヲ代表スル領事館ナ
ルモノカ設置セラレ如何ヘシキ支那官吏ノ駐臺ヲ見ルニ至ラハ前記
華僑ノ素質ト相俟テ時機柄變ラニ平地ニ波瀾ヲ起スノ結果ヲ製造シ
延テハ民族主義ヲ播ク一郡臺灣人ト關係タル關係ヲ生スル虞アリ臺
灣治安上ノ見地ヨリ相當懸念ナキ能ハサル處ヲ以テ臺灣現下ノ實情

(赤枠紙)ナ

外務省

4.5
S 13.1.5.0 -7 94

トシテ支那領事館ノ設置ハ時機ヲ得スト認ムル旨電報アリ將又一月
十三日附機密第一九號在福州西鄉總領事ノ報告ニ徴スルモ本計劃ハ
臺灣ニ在ル二三ノ支那人野心家カ地位ヲ獲ムトシ帝國總督府發給ニ
依ル收入ヲモ當込ミ運動セルニ基クモノニシテ眞面目ニ職務執行ヲ
目的トスルモノニ非サルカ如ク更ニ立入りテ付度セハ之ヲ以テ種子
山及洗南ニ於ケル我領事館設立問題ヲ牽制セルモノナルヤニモ感セ
ラレ其動機ニ幾多不純ノ分子アルヤニ認メラレタルヲ以テ本省ニ於
テハ支那側ニ於テモ強テ目的ヲ貫徹セムトスル意思ナキヤモ測ラレ
ス且又我方トシテモ臺灣總督府ノ抱クカ如キ危惧ノ正否ハ兎モ角ト
シ成ルベク右計劃ヲ放棄セシムルコトヲ得使ト認メ支那側ヲシテ思
ヒ止マラシムル様措置方芳澤公使ニ調令シ置キタルカ昭和三年三月

(赤枠紙)ナ

外務省

4.5
S 13.1.5.0 -7 95

六日外交部沈秘書ハ天淵書記官ニ對シ督促ノ意味ニテ本件ハ別ニ複
雜ナル問題ニモ非サルカ故ニ亟急解決方協力セラレ度シト申入レタ
ルニ付天羽ハ本件臺灣華僑運動ノ裡面ニハ複雜ナル事情モアルカ如
ク又關係方面ニテハ北京政府ノ官吏ノ臺灣派遣ハ北伐完成ニ支障ア
リトテ相當強硬ニ反對シ居ル實情ナレハ今少シテ取調ノ要アル旨答
ヘタルニ沈ハ華僑中領事タラムト運動シ居ルモノ數名アリ又其ノ供
補者トシテ外交部ヘ推薦セラルモノ二三名アルモノ之ヲ任命スルトキ
ハ種々ノ弊害ヲ生スルニ付外交部員ヲ任命シ度キ意圖ナルカ何分臺
灣駐在ノ爲ニハ福進人タルコトヲ必要トシ自然人選ニ手取リ居ル
旨説明セル由ナルモ其後北京政界關係シ彼等ノ交渉ハ其ノ儘打切ノ
要トナレリ

(赤 棒 紙) 4

外 務 省

S 13.1.5.0 -7

96

尚南方政府ヨリ本件ニ關シ是處我方ニ何等申出アリタルヲ聞カヌ

(赤 棒 紙) 4

外 務 省

S 13.1.5.0 -7

97

M-0210

0058

通商局

第一課

昭和四年七月七日接受

普通送第四七三號

昭和四年七月十二日

在南京

領事

岡本一策

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

在臺灣華僑ノ領事館設置運動ニ關スル件

六月二十五日附通第四二三號拙信ニ關シ新聞報導ニ依レハ今般國民政府外交部ハ在臺灣華僑代表張錫祺ヨリ臺灣ニ領事館設置方竝華僑



亞細亞局

502A/2110

BI

應待ノ法律撤消方帝國政府ニ交渉アリ度旨願出ニ接シタル處外交部ハ近ク開始セラルヘキ條日支條約改訂會議ニ於テ同案ヲ提議スル手筈ノ趣ナリ

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先

在支公使

上海總領事

S 13.1.5.0 -7

99

S 13.1.5.0 -7

98

M-0210

0059

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

最近台湾華僑代表より國民政府に對シ
 臺灣、支那領事館設置を陳情シタル者ノ
 外道より亦將改訂會議用紙支那例ハ
 当然舟車ノ要求ヲ提記シタルモノト思フモ、
 此我方ニ於テ右要求ニ應ヂヤルニ於テハ我方ハ
 會議ニ於テ尚記ノ方針ニヨリ本為額ノ多寡ヲ進

外務省

3.3

S 13.1.5.0 -7

102

(原議用紙乙)

困難な立場に處アリ
 他方實際問題トシテ見ルニ現ニ臺灣
 二ハ英米蘭三國領事館ノ設置ヲ認メアリ又
 我方が臺灣ニ支那領事館設置ノ承認ヲ差控
 へタル理由中ニハ南支ノ一時的な要求ニ
 對シテハ支那例ニ準ジテ之ヲ承認スルハ
 支那人の爲ニ格別トシテ所領地ノ南支

(原議用紙乙)

S 13.1.5.0 -7

103

M-0210

0051

設置をキルメ条約上ハ必シモ容認ノ限リニ非サルモ
 此義知ノ如ク来ルヘキ日支通商条約改訂會議ニ於テ
 ハ新条約中ニ規定セラルヘキ一事項トシテ領事館設
 置問題ヲ附議スルニ至ルヘク而モ本問題ニ関シテ
 ハ我方ハ左支帝必領事館配置ノ現状ニ顧ミ兼
 多數諸外^{（我領事館）}例ニ倣ヒ兩國ノ一方ハ原則トシテ
 他ノ一方ノ領域内何レノ場所ニモ領事館ヲ設置シ

8 13.1.5.0 -7

107

外務省

（乙 號用紙） 圖納

北ニ領事館設置方ニ付テハ日英ニ昭和二年十二月
 北京政府ヨリ之ヲ義認ヲ要求シ来リタルニ拘ハラス
 別紙兩号調書記載ノ如キ行忽リアリ今日ニ至ル迄
 右義認ニ呈ラサリシ次チナルカ我方トシテハ同地ニ關ス
 ル限リ現ニ米、蘭兩國ノ領事館ノ設置ヲ認メ居ル
 關係上現行通商条約ノ規定ニ顧ミ之ヲ拒絶スルコ
 ト困難ナルヲ傳アリ又台南ニ付テハ外口領事館ノ

8 13.1.5.0 -7

106

外務省

（乙 號用紙） 圖納

得ルコトスル方針ニテ交渉ヲ進メ度意欲ナルヲ
 以テ若シハ際我方ヲ右台南領ヲ設置ニ関スル
 支那側ノ要求ヲ單ニ条約上ノ見地ヨリ拒絶スルニ於テ
 ハ来ルヘキ条約改訂會議ニ於テ前記ノ方針ニ依リ本
 問題交渉ヲ進ムルコト困難ナル立場トナル虞アリ
 一方實は問題トシテ見ルモ實は我方カ
 本件支那側ノ中ニ出スル
 台湾ニ支那領事館設置ニ義認ヲ差控ヘタル理由
 ノ中ニハ當時一時酌ノ予情モアリ且一部台湾人ト
 ノ關係ニ於ケル治安上ノ懸念ハ容可他ノ方法
 ヲ以テ取締リノ途モアルヘシト思考セラルルニ付テハ
 台南台北共ニ際支那側ノ申出ヲ容ルルコトアリ然
 ハ滿洲トノ接壤關係其他ノ見地ヨリ特ニ考慮ヲ要スル所アリ
 次ニ清津ニ付テモ前記台南ト同様ノ理由ニ依リ之ヲ
 承認スル
 今回支那側ノ希望ニ對シテハ公ニ態度
 ヲ示スト共ニ来ルヘキ条約改訂トモ出来得ル限リ

S 13.1.5.0 -7

109

(乙 號用紙) 圓納

外務省

得ルコトスル方針ニテ交渉ヲ進メ度意欲ナルヲ
 以テ若シハ際我方ヲ右台南領ヲ設置ニ関スル
 支那側ノ要求ヲ單ニ条約上ノ見地ヨリ拒絶スルニ於テ
 ハ来ルヘキ条約改訂會議ニ於テ前記ノ方針ニ依リ本
 問題交渉ヲ進ムルコト困難ナル立場トナル虞アリ
 一方實は問題トシテ見ルモ實は我方カ
 本件支那側ノ中ニ出スル
 台湾ニ支那領事館設置ニ義認ヲ差控ヘタル理由
 ノ中ニハ當時一時酌ノ予情モアリ且一部台湾人ト
 ノ關係ニ於ケル治安上ノ懸念ハ容可他ノ方法
 ヲ以テ取締リノ途モアルヘシト思考セラルルニ付テハ
 台南台北共ニ際支那側ノ申出ヲ容ルルコトアリ然
 ハ滿洲トノ接壤關係其他ノ見地ヨリ特ニ考慮ヲ要スル所アリ
 次ニ清津ニ付テモ前記台南ト同様ノ理由ニ依リ之ヲ
 承認スル
 今回支那側ノ希望ニ對シテハ公ニ態度
 ヲ示スト共ニ来ルヘキ条約改訂トモ出来得ル限リ

S 13.1.5.0 -7

108

(乙 號用紙) 圓納

外務省

秘方主記

支障をき取計に置キコト得策ト認メラルル也

キ付キハ先細右ニ付キテ来ノ貴省何カノ意思

見折返シ由回示相成度也

別添八月五日附支那公使来稿(沢久吉)富ラ甲

難トレ同ハ附来稿(沢久吉)富ラ乙難トレ在

台湾支那口領事館設置問題照会批答書

ヲ内附トレ夫々(都宛添附ノスト)

外務省

(乙 號用紙) 國精

6 13.1.5.0 -7

110

大正

西

昭和四年八月八日在本邦支那公使館江參事官來省谷亞細亞局第一課

西

先ツ江參事官ハ支那國民政府ニ於テハ現在臺灣ニ於ケル支那人ノ
數約十萬ニ達シ之等支那人ノ保護等ノ事務相當多キ事實ニ顧ミ臺
北及臺南兩市ニ新ニ領事館ヲ開設シタキ希望ヲ有シ居リ既ニ別途
書面ニテ申出置キタリト述ヘ

又支那ハ從來朝鮮仁川ニ領事館ヲ有スル處右領事館ハ之ヲ廢シ
之ヲ京城領事館ニ併合スルト同時ニ新ニ清津ニ領事館ヲ設置シタ
キ希望ヲ有スル旨ヲ述ヘタルニ付谷課長ハ右一ノ場合同様書面ヲ

在本邦支那領事館増設等ニ關スル

在本邦支那公使館參事官ト谷亞細亞局第一課長トノ會談要領

外務省

4.5

M-0210

0055

以テ申出ラレタク右書面接到ヲ待チ關係當局協議ノ上挨拶スルコ
トトナルヘキ旨ヲ答ヘタリ

更ニ同參事官ハ朝鮮平壤ニ書報社ナルモノアリ右ハ主トシテ支那
人ノ讀書閱覽所ナルカ最近同社ニ上海ヨリ三民主義關係ノ書籍十
六冊送付セル處朝鮮警察官憲ノ爲沒收セラレタリ右ハ何等主義傳
播ヲ目的トセス只支那人ノ爲ニ讀書ノ便宜ヲ計ラントスルモノナ
レハ是非許可セラルル様取計アリタキ旨述ヘタルニ付谷課長ハ何
レ朝鮮當局ト協議ノ上何分ノ返答ヲナスヘキ旨答ヘタリ

(赤井紙)ナ

外務省

4.5

四 尙同參事官ハ仰高、林進奎ト周子興トノ確執ノ結果トシテ(註、

右林兩人ハ周ニ對シ貸金返還ノ告訴ヲ提起シ警視廳ニ於テ右告訴
ニ關聯シ林兩人ヲモ取調ヘタルニ七月二十三日多數支那人ハ林等
ノ煽動ニ依リ在本邦支那公使館ニ押寄セタル事件アリ右ニ關シ周
子興ハ支那ニ送還セラレタリ)林兩人モ本日支那ニ送還セラレタ
ル趣ナルカ支那側トシテハ支那人同志ノ爭鬭ノ結果トシテ日本政
府ヨリ行政處分ニ處セラルルハ其ノ意ヲ得サル旨述ヘタルニ付谷
課長ハ日本政府ハ國內ノ治安維持秩序保持ノ爲メ必要ト認ムル時
ハ何國人タリトモ之ヲ取締ルヘク例ヘハ在本邦支那公使館ニ支那
人ノ暴徒押寄せタルカ如キ場合ニハ日本政府ハ當然之ヲ取締ルヘ
シ右林兩人ノ場合モ結局送還處分ヲ受クルニ相當スルモノト認メ

(赤井紙)ナ

外務省

4.5

ラルル旨説明シタルニ同參事官モ首肯セリ

(赤穂紙)ナ

外務省

4.5

昭和四年八月拾貳日 生

(赤穂紙)ナ



在本邦支那領事館増設等ニ關スル

在本邦支那公使館參事官ト谷亞細亞局第一課長トノ會談要領

昭和四年八月八日在本邦支那公使館江參事官來省谷亞細亞局第一課長トノ間ニ次ノ如キ會談ヲ交ヘタリ

一先ツ江參事官ハ支那國民政府ニ於テハ現在臺灣ニ於ケル支那人ノ數約十萬ニ達シ之等支那人ノ保護等ノ事務相當多キ事實ニ顧ミ臺北及臺南兩市ニ新ニ領事館ヲ開設シタキ希望ヲ有シ居リ既ニ別途外務省宛書面ニテ右希望申出置キタリト述ヘ

ニ又支那ハ從來朝鮮仁川ニ領事館ヲ有スル處今般右領事館ハ之ヲ廢シ之ヲ京城領事館ニ併合スルト同時ニ新ニ清津ニ領事館ヲ設置シタキ希望ヲ有スル旨ヲ述ヘタルト付谷課長ハ右一ノ場合同様書面

4.6

外務省

ヲ以テ申出ラレタク右書面接到ヲ待チ關係當局協議ノ上挨拶スル
コトトナルヘキ旨ヲ答ヘタリ

更ニ同參事官ハ朝鮮平壤ニ書報社ナルモノアリ右ハ主トシテ支那
人ノ讀書閱覽所ナルカ最近同社ニ上海ヨリ三民主義關係ノ書籍十
六冊送付セル處朝鮮警察官憲ノ爲沒收セラレタリ右ハ何等主義傳
播ヲ目的トセス只支那人ノ爲ニ讀書ノ便宜ヲ計ラントスルモノナ
レハ是非許可セラルル様取計アリタキ旨述ヘタルニ付谷課長ハ何
レ朝鮮當局ト協議ノ上何分ノ返答ヲナスヘキ旨答ヘタリ

(赤梓紙)ト

外務省

4.5

四 尙同參事官ハ林仰高、林進奎ト周子興トノ確執ノ結果トシテ(註

右林兩人ハ周ニ對シ貸金返還ノ告訴ヲ提起シ警視廳ニ於テ右告訴
ニ關聯シ林兩人ヲモ取調ヘタルニ七月二十三日多數支那人ハ林等
ノ煽動ニ依リ在本邦支那公使館ニ押寄セタル事件アリ右ニ關シ周
子興ハ支那ニ送還セラレタリ、林兩人モ本日支那ニ送還セラレタ
ル趣ナルカ支那側トシテハ支那人同志ノ爭鬭ノ結果トシテ日本政
府ヨリ行政處分ニ處セラルルハ其ノ意ヲ得サル旨述ヘタルニ付谷
課長ハ日本政府ハ國內ノ治安維持秩序保持ノ爲メ必要ト認ムル時
ハ何國人タリトモ之ヲ取締ルヘク例ヘハ在本邦支那公使館ニ支那
人ノ暴徒押寄せタルカ如キ場合ニハ日本政府ハ當然之ヲ取締ルヘ
シ右林兩人ノ場合モ結局送還處分ヲ受クルニ相當スルモノト認メ

(赤梓紙)ト

外務省

4.5

（赤林）

4.4

外務省

111

在臺灣支那國領事館設置問題經過概要

昭和四年七月十七日調製

昭和二年十一月十九日附書翰ヲ以テ在本邦支那公使ヨリ臺灣中華總會館長高銘鴻ヲ在臺支那人ニ對スル國籍證明書發給者（僑務局辦理華僑國籍證明駐臺專員）ニ任命スル旨申越アリタル事領事館以外ノ者ニ國籍證明書發給ノ權限ヲ承認スルコトハ理論上及慣例上面白カラサル爲本省ニ於テハ之カ承認ヲ請フ居タル處次テ昭和二年十二月三十一日附ヲ以テ北京外交部ヨリ芳澤公使ニ對シ日支條約第三條ニ基キ臺灣ニ支那國領事館設置承認方申越セリ
然ル處我方ハ北京政府ヲ承認シ居ラサキ關係上若シ北京政府カ臺灣ニ獨立ノ領事館ヲ新設シ居ル場合其ノ認可狀奏請ニ當リ困難ナ

外務省

4.5
S 13.1.5.0 -7

112

（赤神紙）ナ

生ネヘク思考シタルヲ以テ直ニ芳澤公使ニ電訓シ現在臺灣ヲ管轄スル神戸總領事館ノ分館ヲ臺灣ニ設置スル方都合宜敷カルヘキ旨北京政府ニ對シ懇懇セシムルト同時ニ右臺灣ニ於ケル領事館設置ノ申出ニ依リ國籍證書處專員任命ノ問題ハ自然消滅ニ歸スルモノト了解スル旨念ヲ推サシメタリ

之ニ對シ北京外交部ハ專員ヲ臺北ニ分館ヲ設置スル

同時ニ國籍證書處專員任命ノ件ハ自然消滅ニ歸スヘキ旨回答

一月十八日臺灣後藤總務長官ヨリ本問題ハ臺灣ニ於ケル中華

會館幹部一味ト北京僑務局員ト稱スル施文杞（生來ノ臺灣人自身領事タラムトノ野心ヲ有ス）ナル者ノ策動ノ結果ニ外ナラサルカ如キ

外務省

4.5
S 13.1.5.0 -7

113

ノミナラス在臺支那人約三万人ノ大部分ハ福州廈門方面ヨリ渡來セ
ル南方勢力圈内ノ住民ナル爲前記一味ノ策動者ハ南京政府ニ對シテ
モ同時ニ運動シ居ル事實アリ加之右三万人ノ大部分ハ無智ノ蓄力階
級ニ屬シ今回運動ノ衝ニ當レル少數華僑成功者ハ領事館設置ノ曉ニ
ハ在臺華僑ノ總テハ領事ノ保護ニヨリ臺灣官憲ニ對シ如何ナル主張
ヲモ貫徹シ得ヘシ等ノ宣傳ヲ爲シ居リ一方支那本國ノ現狀ニ徴シ其
ノ本館タルト分館タルトヲ問ハス所謂支那政府ヲ代表スル領事館ナ
ルモノカ設置セラレ如何ハシキ支那官吏ノ駐臺ヲ見ルニ至ラハ前記
華僑ノ素質ト相俟テ時節柄徒ラニ平地ニ波瀾ヲ起スノ結果ヲ招致シ
延テハ民族主義ヲ抱ク一部臺灣人ト纏綿タル關係ヲ生スル虞アリ臺
灣治安上ノ見地ヨリ相當懸念ナキ能ハサル趣ヲ以テ臺灣現下ノ實情

外務省

(赤杉紙)ナ

6 13.1.5.0 -7

114

トシテ支那領事館ノ設置ハ時機ヲ得スト認ムル旨電報アリ將又上月
十三日附機密第一九號在福州西澤總領事ノ報告ニ徴スルモ本計劃ハ
臺灣ニ在ル二三ノ支那人野心家カ地位ヲ獲ムトシ旁國籍證書發給ニ
依ル收入ヲモ當込ミ運動セルニ基クモノニシテ眞面目ニ職務執行ヲ
目的トスルモノニ非サルカ如ク更ニ立入りテ付度セハ之ヲ以テ帽
山及洮南ニ於ケル我領事館設立問題ヲ牽制セモノナルヤニモ感セ
ラレ其動機ニ幾多不純ノ分子アルヤニ認メラレタルヲ以テ本省ニ於
テハ出資ヲ爲シテハ其目的ヲ貫徹セムトスル意思ナキヤモ測ラレ
本且又我方トシテモ臺灣總督府ノ抱クカ如キ危惧ノ正否ハ兎モ角ト
シ成ルベク右計劃ヲ放擲セシムルコトヲ得策ト認メ支那領事ヲシテ思
ヒ止マラシムル様措置方芳澤公使ニ訓令ヲ發シタルカ昭和五年三月

(赤杉紙)ナ

外務省

6 13.1.5.0 -7

115

米申外交部海軍省ハ天初書記官ニ對シ督促ノ意味ニテ本件ハ別ニ機
 難ナル問題ニモ非サルカ故ニ至急解決方協力セラル度ニ申入レタ
 ルニ付末初ハ本件臺灣華僑運動ノ裡面ニハ複雑ナル事情モアルカ如
 ク又福建方面ニテハ北京政府ノ官吏ノ臺灣派遣ハ北伐完成ニ支障ア
 リトテ相當強硬ニ反對シ居ル實情ナレハ今少シク取調ノ要アル旨答
 ヘタルニ此ハ華僑中領事タラムト運動シ居ルモノ數名アリ又其ノ候
 補者トシテ外交部ヘ推薦越セルモノ二三名アルモ之ヲ任命スルトキ
 ハ種々ノ弊害ヲ生スルニ付外交部員ヲ任命シ度キ意嚮ナルカ何分臺
 灣駐在ノ爲ニハ福建人タルコトヲ必要トシ自然人選ニ手間取り居ル
 旨説明セル由ナルモ其後北京政府動搖ニ伴フテ交渉ハ其ノ儘打切ノ
 姿トナリ
 支那郵局ノ郵便ニ付ヒセシ

外務省

尚南方政府ヨリ本件ニ關シ是迄我方ニ何等申出アリタルヲ聞カス
 照ルニ最近支那新聞紙ニ依リ
 南東漢中紙報ニ依リ
 付文官知リ在台ハ華僑代

外務省

開始ニシテヤキ日
支那の改訂に
注ニ於テ金葉
ヲ授ケルニ由
テん趣付ツミ
テリ申付ル
事トシテ事
トシテ事

表周炳章著ヲ在中華僑ノ高貴保護ノ為
同島ニ於テ欲ク同政セシメ且不平者多ク
所擁護ニ力ヲ致サレトテ希望ス著ノ旨未
接シ外交部ニ轉達シ趣旨ニ國民政府外
交部ニ在中華僑代表張錫祺ヲ台湾ニ於
僑僑及華僑僑僑一性分撤消方日本政府
矣漢方及在中華僑ニ於テ外交部ハ此ヲ

外務省

(原議用紙乙)

通商局
民字第一六三號

昭和四年八月六日 接受

敬啟者案查中國僑居台灣全島商民為數甚多關於管理保護問題早有設置領事之必要自民國十六年以來中國擬在台灣酌設領館疊與

貴國政府先後接洽各在案茲復奉本國政府訓令擬在台北台南兩處各設領事一員辦理僑務囑為商求同意茲特函請

貴大臣為兩國相互便利起見查照疊次商議各節早予同意以便進行至深感禱并祈見復為荷祇頌

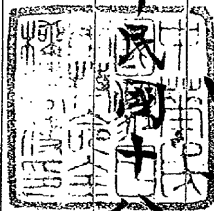
勛祉

右致

日本外務大臣男爵幣原喜重郎閣下

中華民國特命全權公使汪榮寶

中華民國十八年八月五日



中華民國駐日本公使館

外務省
 3.2
 6 13.1.5.0 -7 122
 (原議用紙乙)ナ
 又、在國民の間、事務の整理を以て
 付、右同意取得の交渉を以て、創設
 仍、茲に照会致す所は、大抵、何年、何月
 相互、便宜、一、從來、屢次、商談、一、事
 物、皆、ト、其、照、一、上、述、一、の、承、認、如、く、存、件、解
 決、の、以、趣、相、照、及、尚、何、分、一、概、以、回、示、相、照
 復、以、致、照、會、得、意、如、願、具

外務省
 3.2
 6 13.1.5.0 -7 121
 (原議用紙乙)ナ
 抵、陳、省、長、清、在、留、中、國、商、民、ハ、其、數
 甚、多、ク、之、ガ、發、展、保、護、の、點、一、周、ニ、早
 ク、以、順、事、ヲ、強、化、セ、シ、ム、ハ、必、要、ナ、リ、氏、國
 十、六、年、以、來、中、國、ハ、台、灣、一、順、事、順、ヲ、通
 宜、設、置、政、府、ヲ、布、置、シ、以、テ、屢、ニ、貴、國、政、府
 へ、交、渉、シ、シ、ル、以、テ、其、如、今、般、更、ニ、本、國、政
 府、ヲ、在、此、島、南、一、面、地、ニ、更、ニ、順、事、一、布、民

(原議用紙乙)ナ

追テ本件ニ関シテハ台湾総督府迄ニ朝鮮
総督府トモ合函ニ有エリ

記

台北及台南ニ支那領事館設置カニ関シテハ
領事ニ任命セラレタル者が現ニ台湾以籍民
タル者及ハ臺日ヲ台湾以籍民ニシテ支那ニ
帰化シタル者ナルトキニ日本政府ニ於テ

外務省

3.2

8 13.1.5.0 -7

125

(原議用紙乙)ナ

認可ヲ拒否セラルベキトテ前件トシ可成
台北ノミ承認シ台南ハ外交諸般ノ關係
上已ハテ得ヤル場合ニハ之ヲ認めルコト、致シ後
情事ニ支那領事館設置カニ関シテハ別
段異存ナシ但シ朝鮮(支那)ノ意見ハ
尤ノ通ニ付御意相成

外務省

3.2

8 13.1.5.0 -7

126

M-0210

0077

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

原、兵トシテ兵、施設改ヲ為スベノヲ想セ
 ラルヲ以テ斯ノ如キ軍事上ノ重要兵
 外國軍事報ヲ改定スルニトハ同意シ
 難シ若シ外交諸般ノ關係上大局ヲ
 見テ清津ニ改定承認已ハテ得バト
 認メラレハ場合ニ依テハ國境防備ノ見地
 より從來ノ急案タル帽子山領事分館

(原議用紙乙ナ)

外務省

清津ニ支那領事館改定ニ関シテハ
 該地が極度國境ニ近シ極基ト相俟テ
 北鮮方面ニ於テハ港灣トシテ軍事上重要
 ナルノミナラズ將來古層據ノ定成ニヨリ
 極端港トナル場合ニ依テハ港灣設備ノ完
 成ト相俟テ一層重大性ヲ增加シ得シテ
 一朝有事ニ際シテハ軍需諸品ノ補給

(原議用紙乙ナ)

外務省

官

拜啓益々御清穆奉慶賀候陳者帽兒山地方ノ形勢ニ就テハ其後絶エス
注意ヲ拂ヒ居ル次第ニ有之候處一月十一日附在中江鎮普通學校長草
野秋喜氏（同氏ハ分館充當家屋明渡困難トナリタル時在帽兒山補助
書堂家屋ヲ一時廳舎トシテ提供セントシ其他先年支那側ノ教育權回
收運動ノ際帽兒山ヨリ押出サレタル一人トシテ分館問題ニ對シ同情
シ終始誠意ヲ以テ援助セントスル人物ニ有之候）ヨリノ通信ニ據レ
ハ帽兒山支那官民ノ態度ハ客秋來頓ニ好轉シ機會アル毎ニ中江鎮官
民ト相往來接觸シ殊ニ教育機關ヲ通シテノ親善振リハ目立ち帽兒山
私立第一小學校ノ如キ日本語教授ヲ開始シタル程ニテ右ハ近來兩岸
ノ感情ヲ害スルカ如キ問題ナキニ因ルモノニ有之候ヘ共國民政府ノ
動搖勝ナルコト、露支紛爭ノ如キ問題起リタル場合實力ナキモノハ

外務省

4.12

S 13.1.5.0 -7

132

外務省

外務省

(五) 外交部ハ本年總領事館、領事館、副領事館
分館二十六個所ヲ開設スル等ニテ既ニ八個所ハ準備
ニ着キタリ、又、西貢等ノ總領事館開設ニ干シテハ
同ニ支拂ナリ
支、上海、奉天、哈爾濱へ移設セリ

S 13.1.5.0 -7

131

寫送先

會文人情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

分類 141.5.0.3-85

502.412.11B

次官
大臣

電信課長

第一六四號

幣原外務大臣

昭和5 二二四四 暗

南京 本省

十四日後發
二月十四日後着

通一

上村領事

國民政府ニ於テ臺灣ニ領事館新設ノ議アルコトハ往電第三二號ノ(五)
王正廷ノ聲明ニ依リ御承知ノ通ニテ過般來國際司長及周龍光ヨリ本
官ニ對シ右ニ關スル日本政府ノ許可取付方汪公使ニ訓令セルモ日本
政府ニ於テハ未タ明答ヲ與ヘサル模様ナルカ今日強テ日本力之ニ反
對スル理由モナカルヘシ等述ヘタル次第アリタルカ十三日江華本本
官ヲ來訪シ實ハ外交部ニ於テハ臺北ニ總領事館及臺南ニ副領事館ヲ
設置スル計畫ニテ既ニ豫算モ通過シ居ル次第ナル處汪公使ノ報告頗

外務省

S 13.1.5.0 -7

134

到底勝チ得ヌコト及兩岸ノ親善ヲ期スルコトハ結局彼等官民ノ安全
保障トナルコト等ノ事理カ實際了解サレ來リタルコトモ亦重要ナル
原因ナル趣ニ有之候卑見ニ據レハ今後斯ノ如キ空氣ヲ以テ開轉シ行
ケハ分館開設モ奉天當局ノ承認アル限り最早ヤ老獯ナル手段タル地
方單獨ノ反對モ無之カルヘク殊ニ反對ノ中心タル教育界ノ對日感
情前記ノ如ク緩和サレタル以上極メテ好都合ナルヤニ認メラレ今後
最近新紙報道ニ依ル支那政府ノ臺灣領事館新設提議ノ際我方ヨリモ
帽兒山分館開設ヲ商議スルコトハ絶好ノ機會カト存セラルル次第ニ
有之候右御參考迄報告申上候 敬具

昭和五年一月二十八日

在局子街分館 田中 作

三浦亞細亞局第二課長殿

御侍史

外務省

S 13.1.5.0 -7

133

M-0210

0081

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

ル不得要領ナルニ付貴官ヨリ非公式ニ日本政府ノ意見ヲ御問合相成
様願度キ旨申出テタリ
就テハ先方ニ對スル應酬振本官心得迄ニ御回電ヲ請フ
上海へ轉電セリ

外務省

6 13.1.5.0 -7

135

口より

我領事館新設

件ニ當テ支那領事館ノ設置ニ付テハ

昭和四年三月十日決裁了

臺灣及朝鮮ニ支那領事館新設方ニ関スル件

客年八月甲在本邦支那國公使ヨリ別紙甲號

(同月五日附)及別紙乙號(同月八日附)各書翰

ヲ以テ臺灣ニ於ケル臺北、臺南及朝鮮ニ於

ケル清津、三地ニ支那領事館新設方我

方ノ同意ヲ得度旨本國政府訓令ニ依

リ申出タルヲ以テ當時別紙丙號(八月二十

外務省

6 13.1.5.0 -7

136

M-0210

0082

ル不得要領ナルニ付貴官ヨリ非公式ニ日本政府ノ意見ヲ御問合相成
 様願度キ旨申出テタリ
 就テハ先方ニ對スル應酬振本官心得迄ニ御回電ヲ請フ
 上海へ轉電セリ

外務省

6 13.1.5.0 -7

135

口より

我領事館新設

ノ件ニ當リ支那領事館ノ設置ニ求ムル旨

（原議用紙乙ナ）

臺灣及朝鮮ニ支那領事館新設方ニ関スル件

客年八月甲在本邦支那國公使ヨリ別紙甲號

（同月五日附）及別紙乙號（同月八日附）各書翰

本高裁案列外里方
 至下号各原紙ニ就キ
 見ル下

灣ニ於ケル臺北、臺南及朝鮮ニ於

人事課長

ケル清津、三地ニ支那領事館新設方我

方ノ同意ヲ得度旨本國政府訓令ニ依

リ申出タルヲ以テ當時別紙丙號（八月二十

外務省

6 13.1.5.0 -7

136

M-0210

0083

右等三地ノ支那領事館新設ニ同意スルヲ
 適當トスヘキ屬之カ爲ニハ拓務省回答中
 台北及台南ニ領事タルヘキ者ノ國籍ニ關
 スル條件ヲ可然形式ニテ支那側ニ通告
 スルヲ必要トスヘキ尚又此際我方ヨリモ
 支那側ニ對シ右等三地ノ領事館開設
 ト同時ニ我カ帽兒山分館及河南省
 湖南領事館

3.1

6 13.1.5.0 -7

138

(原議用紙乙ナ)

二日附公信ノ一通拓務省ニ對シ本件ニ関
 スル意見ヲ照會シ置タル屬同省ニ於テ
 ハ臺灣總督府及朝鮮總督府ト打合ノ
 上別紙丁號(若月十一日附公信)ノ通回答シ
 越シタリ
 就テハ當省トシテハ前記拓務省ニ對スル
 照會中ニモ表明セラレタル通り主義上
 外務省

3.1

6 13.1.5.0 -7

137

(原議用紙乙ナ)

子ト大差無ク何レノ途支那側ノ同意アラハ
 同地ニ於ケル領事館開設ハ支障無キ所
 ナルヲ以テ右開設ニ要スル費用ニ関シテハ
 豫備金支出ノ要求ヲ試ミ若シ豫備金
 ノ支出ヲ得サル時ハ追加豫算ニ計上
 スルコト致度
 尚又帽鬼山分館関係經費ハ四年度

3.2

S 13.1.5.0 -7

140

外務省

(原議用紙乙ナ)

鄭州領事館開設ニ同意有テ求ムル
 趣旨ヲ申入ルルコト時宜ニ適スルヤニ思考セ
 ラルルニ就テハ今般別改定張案ノ通在本
 邦支那公使ニ回答スルコト致度
 追テ鄭州ハ支那側ニ於テ既ニ開埠ヲ
 宣言シ只未タ之ヲ實行シ居ラスト雖モ
 右事態ハ山東省ニ於ケル張店・博山・坊

3.2

S 13.1.5.0 -7

139

外務省

(原議用紙乙ナ)

外務省	同意アリタル場合ニハ右様方法ニ依ルコトト 致度 右仰高裁
-----	------------------------------------

3.3

6 13.1.5.0 -7

142

(原議用紙乙)ナ

外務省	実行豫算ニ計上セラレ居リ従テ五年度 ニ於テモ之カ支弁ノ途アルヘク又此南領事 館関係経費ハ過般四年度実行豫算 編成ニ際シ削除セラレタルモ前記鄭州 領事館ニ関スル経費ト同様豫備金支出 又ハ追加豫算ニ計上等ノ方法ニ俟ツコト 不可能ニ非ルヘキヲ以テ是亦支那側
-----	---

3.3

6 13.1.5.0 -7

141

(原議用紙乙)ナ